

## 01

## JICAと科学技術振興機構、連携協定を締結



協定締結を交わすJSTの北澤宏一理事長(右)と  
緒方貞子理事長

1月21日、JICAと科学技術振興機構(JST)は、科学技術と外交を連携させ相互に発展させる「科学技術外交」の一環として、連携協定を締結した。これは、外務省、文部科学省、JICA、JSTが連携して実施する「地球規模課題対応国際科学技術協力」に伴って実現したものだ。

この事業は、環境・エネルギー、防災、感染症など地球規模課題の解決に向け、日本の科学技術力を活用し、開発途上国の大学・研究機関などと連携して共同研究を推進することが目的だ。途上国の人材育成と研究能力の向上を図りながら、地球規模課題の解決に資する新たな知見の獲得、技術水準の向上、その成果の社会への還元を目指す。

## 02

## マレーシアで「ミンダナオ平和構築・復興開発セミナー」開催

フィリピン・ミンダナオ島を舞台にした、フィリピン中央政府とモロ・イスラム解放戦線(MILF)との和平交渉が膠着状態にある中、1月13～15日に「ミンダナオ平和構築・復興開発セミナー」がマレーシアのペナンで開催された。このセミナーは、JICA、マレーシア科学大学平和ユニットの共催によるもの。今回で3回目を迎え、フィリピンからは、NGO、学者、宗教家、ジャーナリストなど、キリスト教徒、イスラム教徒、先住民族が一堂に会した。さらに、マレーシアからは、国際監視団の

初代団長や大学関係者、日本からは、JICA関係者を含む7人が出席した。

初日は、参加者全員でミンダナオの現状を分析。平和の実現のために開発が成し得る可能性を探り、問題解決を探る議論が行われた。2日目は、ミンダナオ問題の課題を9つ設定し、グループごとに議論。国際社会の貢献、コミュニティレベルでの復興・開発などが模索された。そして、各グループの議論の成果のもと、①和平交渉、②コミュニティ、③紛争当事者と関係者のレベルで

今後の対策が提言され、停戦監視メカニズムの再構築、コミュニティ開発とエンパワメント(能力強化)の促進、草の根レベルの評議会設置などが盛り込まれた。



セミナーで発言するJICAの石川幸子・国際協力専門員(左)と落合直之・東南アジア第一大洋州部企画役(中央)

## 03

## 「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2008」入賞者発表

2月28日、「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2008」の表彰式がJICA地球ひろばで催された。

このコンテストは毎年夏休みの時期に、全国の中高生を対象に行っている。47回目を迎える今回のテーマは「地球と生きる」地球に暮らす一員としてできること、考えること。応募総数は7万5010点(中学生の部5万1493点、高校生の部2万3517点)。前年度の1.5倍となった。上位賞(最優秀賞、優秀賞、審査

員特別賞)入賞者には、今年の夏休みに、開発途上国でJICAのプロジェクトなどを視察する1週間の研修旅行が贈られる。詳細はJICA地球ひろばのホームページ(<http://www.jica.go.jp/hiroba/ain/sanka/essay/>)を参照。

## ●最優秀賞の入賞者

## ●中学生の部

青森県立三本木高等学校附属中学校1年 野坂創さん「三本木の夢」

玉川聖学院中等部1年 藤村朱

音さん「ランドセルを通して考えた国際協力」

富士市立田子浦中学校3年 河野岳さん「二人でも多くの命を」

## ●高校生の部

学校法人大和山学園松風塾高等学校2年 石井陽平さん「父が僕にくれた夢」

学校法人尚学学園沖縄尚学高等学校2年 饒平名玲美さん「真の国際交流と平和」

岩手県立盛岡第四高等学校2年 千葉美華子さん「生きる幸せ」